

令和4年度

地域経済動向分析レポート

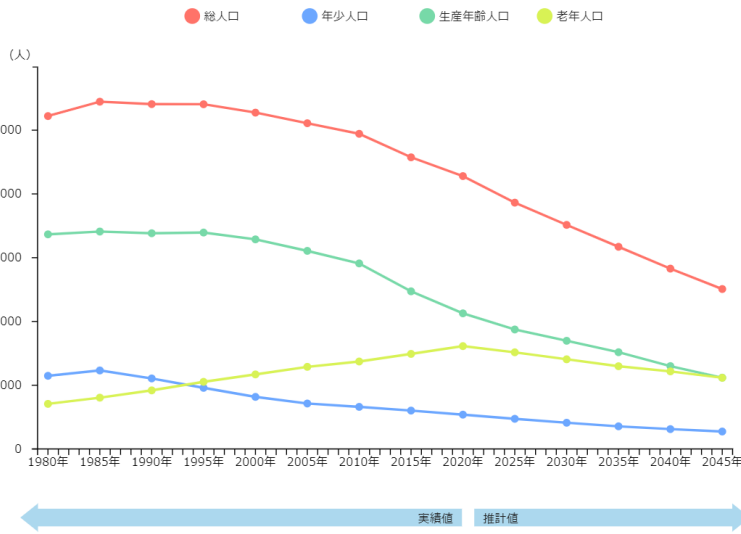
福智町商工会

本レポートは、地域経済分析システム（RESAS：リーサス）を活用して地域課題の抽出と将来予測の分析等を行い、当地域（福智町）で事業展開を行う事業所への情報提供を目的として作成した。

地域経済の動向を把握し、限られた経営資源を効果的に投下できるよう、分析を行うものである。

※地域経済分析システム（RESAS：リーサス）は、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステムである。

地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供している。



## 【年齢別人口推移】

総人口・年代別に人口がどのように推移するか把握する。

2020年と比較して、2025年に90.3%、2035年に74.1%、2045年に58.6%と、減少していくことがわかる。

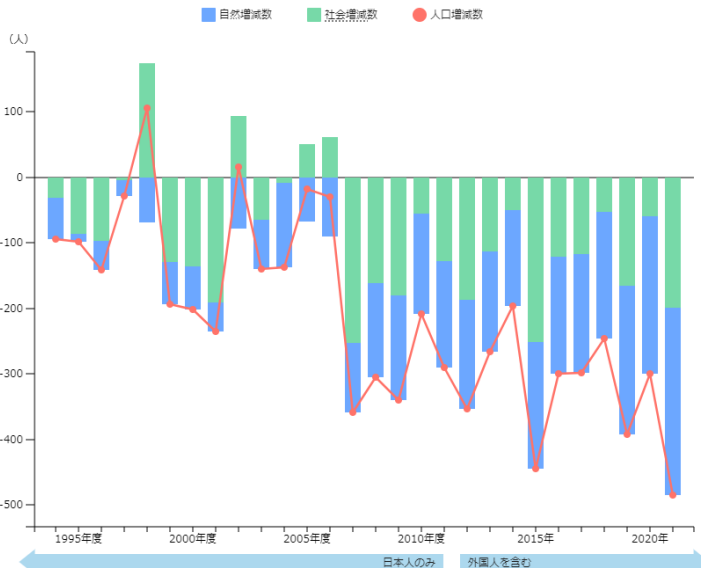
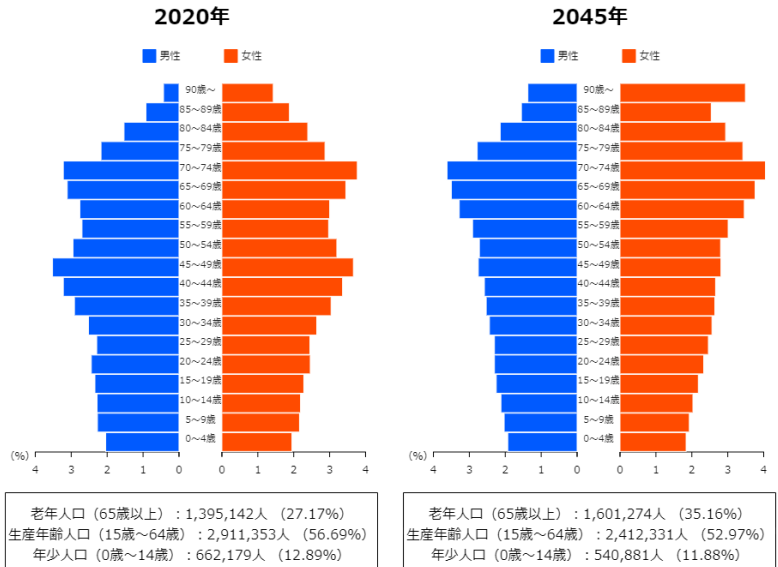
## 【人口ピラミッド】

人口の男女別・年齢別構成を把握する。

2020年から2045年にかけて福智町の老年人口（65歳以上）は37.7%⇒44.51%へ。

2020年から2045年にかけて生産年齢人口（15歳～64歳）は49.71%⇒44.58%、年少人口（0歳～14歳）は12.58%⇒10.92%となる。

特に女性の老年人口を割合が突出していくことがわかる。

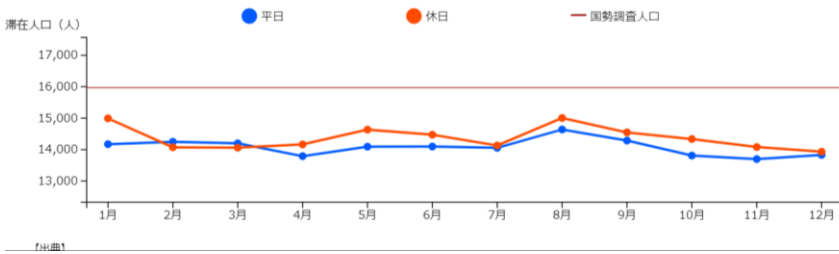


## 【自然増減・社会増減の推移】

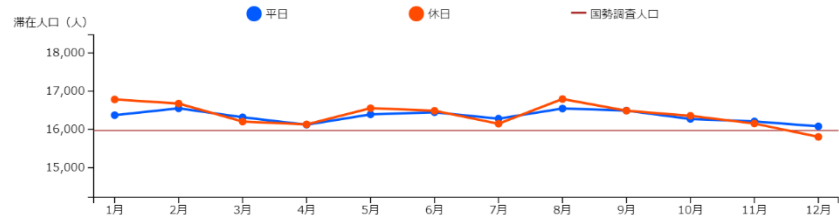
現在までの人口推移に「出生・死亡による自然増減」「転入・転出による社会増減」の2つの要因が与えた影響を確認する。

自然増減・社会増減ともに減少が目立つグラフとなっている。

2021年 14時  
総数 総数 (15歳以上80歳未満)  
(国勢調査人口: 15,972人)



2021年 20時  
総数 総数 (15歳以上80歳未満)  
(国勢調査人口: 15,972人)



## 【滞在人口】

2021年1月～12月のデータ。

上：昼間、下：夜間。

昼間人口と夜間人口を月毎に比較したグラフである。

昼間人口よりも夜間人口が多いことから、他の市区町村からの通勤・通学者数（流入人口）よりも、他の市区町村への通勤・通学者数（流出人口）が多いことが読み取れる。

※昼間は14時、夜間は20時のデータを掲載している。

## 【年少人口割合等の比較】

都道府県平均と比較して、年少人口割合および生産年齢人口割合は低く、老年人口割合および合計特殊出生率は高い。

### 福岡県福智町

↑ 対象自治体が都道府県以上  
↓ 対象自治体が都道府県未満

推移情報	全国平均	都道府県平均	対象自治体	
年少人口割合	12.03% ※1	12.89% ※1	12.58% ※1	↓
生産年齢人口割合	59.09% ※1	56.69% ※1	49.71% ※1	↓
老年人口割合	28.88% ※1	27.17% ※1	37.70% ※1	↑
合計特殊出生率	1.43% ※2	1.44% ※3	1.78% ※2	↑
推移情報	世代		全国転出超過元/転入超過元	
転出超過	15～19歳→20～24歳		福岡県北九州市八幡西区	
転入超過	55～59歳→60～64歳		福岡県田川市	

# 産業構造

## 【事業所数（事業所単位）大分類】

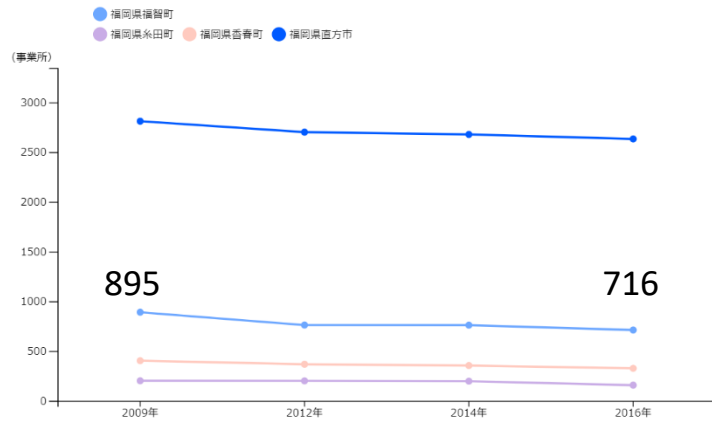
業種ごとの企業数を面の大きさを示したグラフである。  
 もっとも多いのは「卸売業,小売業」で152社。  
 次いで「建設業」の122社、「医療,福祉」の64社が続く。

事業所数（事業所単位）716事業所



## 【事業所数の推移】

事業所数の推移を見る。  
 2016年の福智町の事業所数は716事業所。  
 7年前の2009年と比較すると20%減である。  
 周辺の他地域も事業所数は減少している状況である。

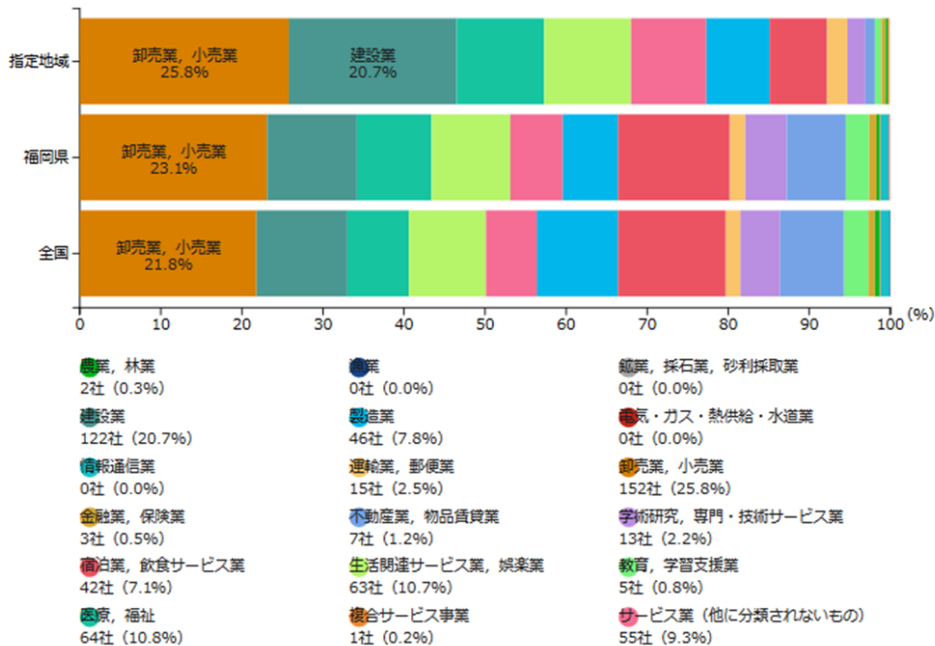


## 【企業数（企業単位）福岡県・全国との比較】

福智町の企業数を福岡県・全国と比較すると、その割合は「卸売業,小売業」が25.8%となっており、福岡県の23.1%、全国の21.8%と比較すると高い数値となっている。

### 企業数(企業単位) 2016年

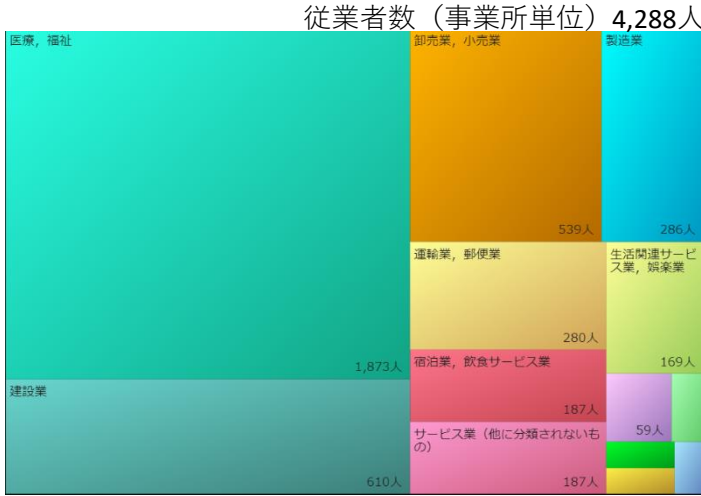
指定地域：福岡県福智町



# 産業構造

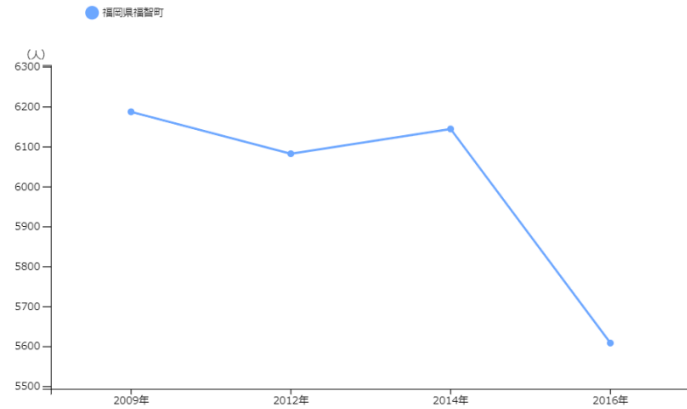
## 【従業者数】

業種ごとの従業者数を面の大きさを示したグラフである。もっとも多いのは「医療、福祉」で1,873人。全体の43.6%を占めている。その後、建設業、卸売、小売業が続く。



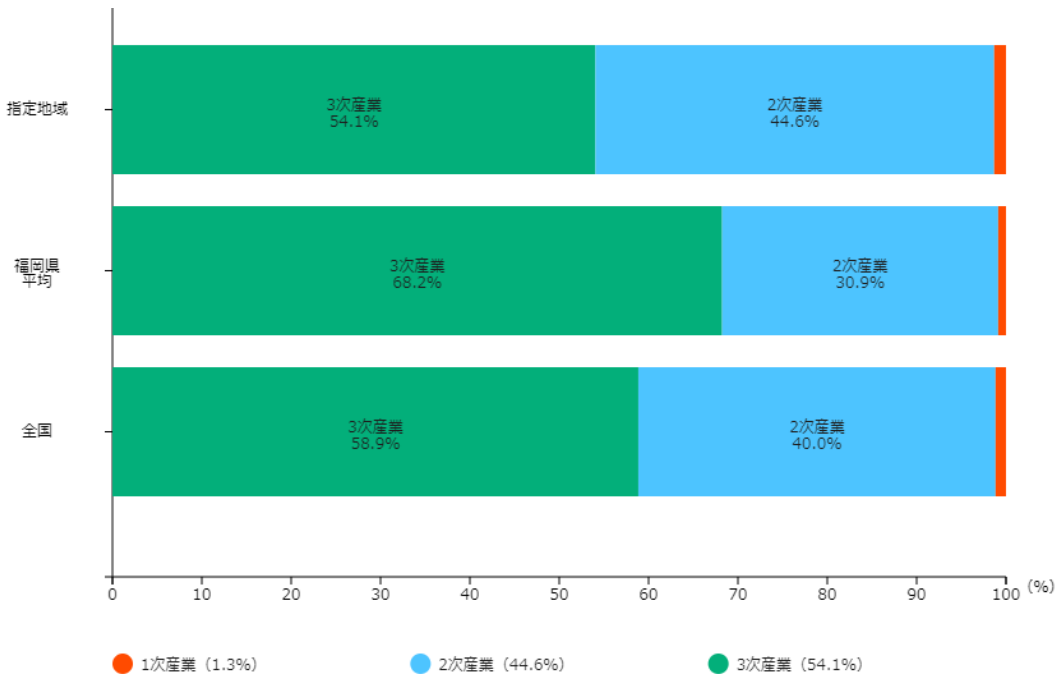
## 【従業者数の推移】

従業者数の推移を見る。2009年に6,188人であった従業者数は、2016年には5,609人となり、約9.3ポイント減となっている。



## 【地域内産業の構成割合】

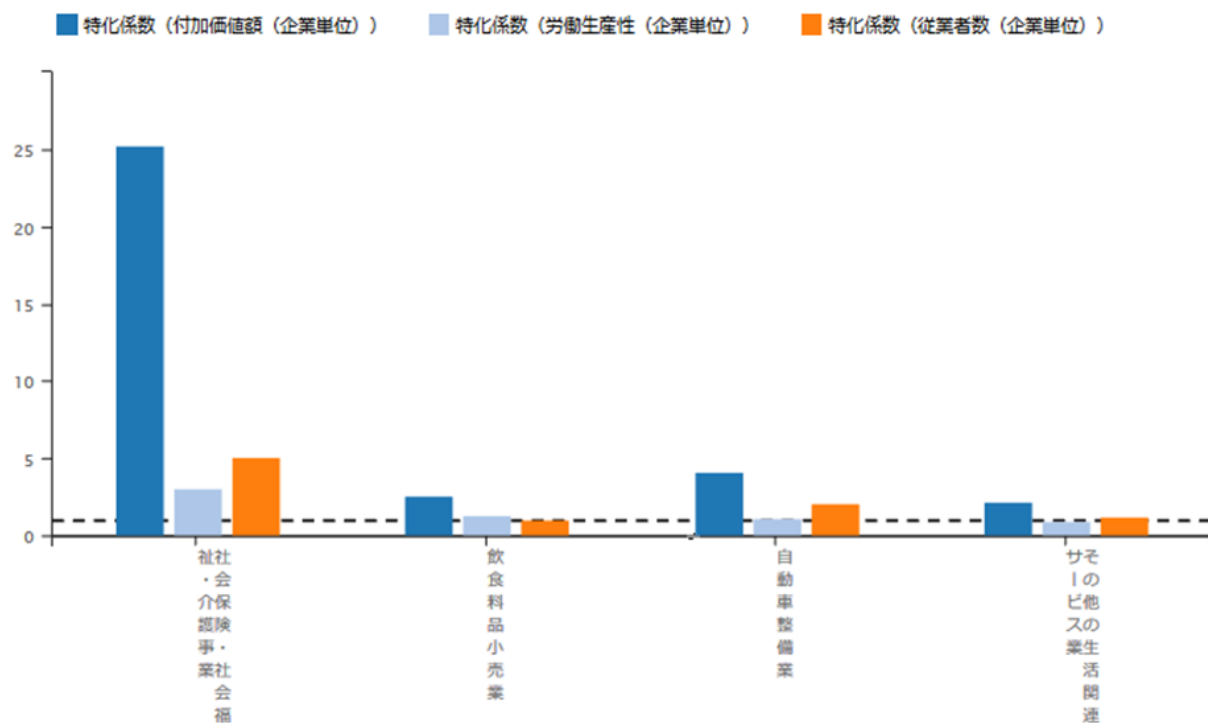
福智町の産業の構成割合を全国および福岡県と比較したグラフである。もっとも割合が高いのは第3次産業で54.1%、次いで第2次産業が44.6%となっている。第3次産業が全国、福岡県と比較して少ない反面、第2次産業の割合が全国、福岡県と比較して多い。



## 産業別特化係数

2016年

指定地域：福岡県福智町



### 【稼ぐ力分析】

付加価値額（企業単位）・労働生産性（企業単位）・従業者数（企業単位）の特化係数を確認し、稼ぐ力のある産業を把握する。

地域内の産業について、付加価値額（企業単位）・労働生産性（企業単位）・従業者数（企業単位）がそれぞれ全国と比べて特化（1を超えている）しているか否かを見ることで、産業ごとの課題把握に役立てる。グラフは従業者数（企業単位）の特化係数が1を超えている産業について、従業者数（企業単位）の特化係数に基づき左から降順で並べたもの。

福智町においては社会保険・社会福祉・介護事業が抜きん出ている。

## 用語説明

特化係数	地域の特定の産業の相対的な集積度。
付加価値	企業等の生産活動によって新たに生み出された価値。 RESASでは以下の計算式を用いている。 [売上高－費用総額（売上原価＋販売費及び一般管理費）＋給与総額＋租税公課] なお、国民経済計算の付加価値額と異なり固定資本減耗分が含まれていない。
労働生産性	付加価値額÷従業者数の値。

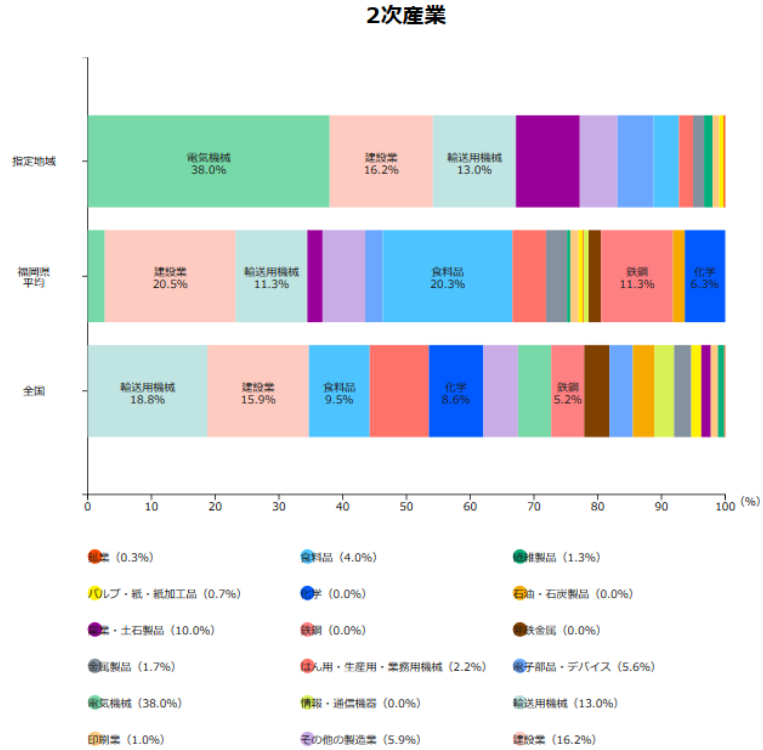
# 産業構造

## 【2次産業の業種別構成割合】

福智町における2次産業の構成割合は、電気機械が最も多く38.0%、次いで建設業が16.2%、輸送用機械が13.0%となっている。

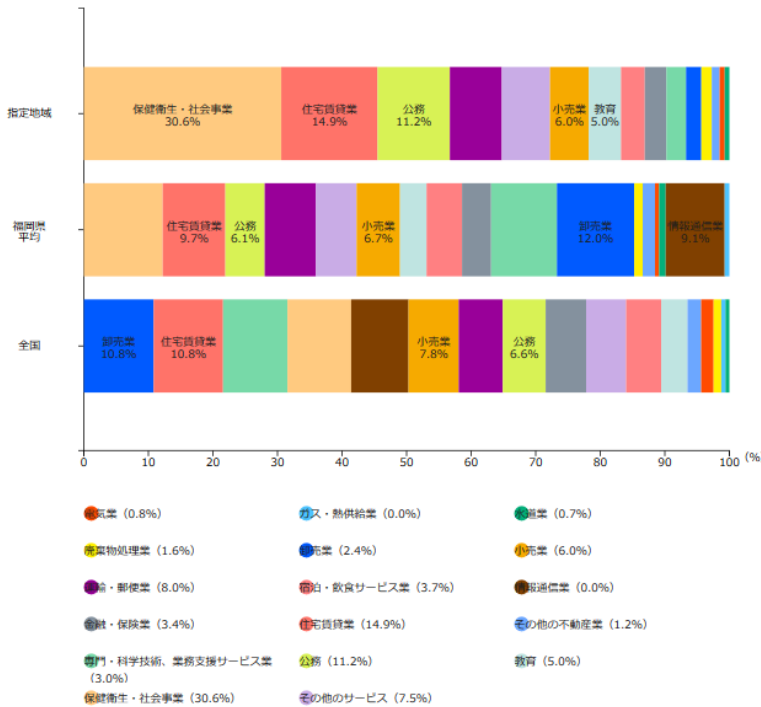
福岡県平均は、最も多い建設業が20.5%、次いで食料品20.3%、輸送用機械と鉄鋼がそれぞれ11.3%で続く。

全国平均は、輸送用機械が最も多く18.8%、次いで建設業15.9%、食料品9.5%となっている。



## 3次産業

## 【3次産業の業種別構成割合】



福智町における2次産業の構成割合は、保健衛生・社会事業が最も多く30.6%、住宅賃貸業が14.9%と続く。

福岡県平均は、最も多い卸売業が12.0%、次いで住宅賃貸業が9.7%、情報通信業が9.1%で続いている。

全国平均は、卸売業と住宅賃貸業が並んで10.8%と最も多く、次いで小売業の7.8%となっている。

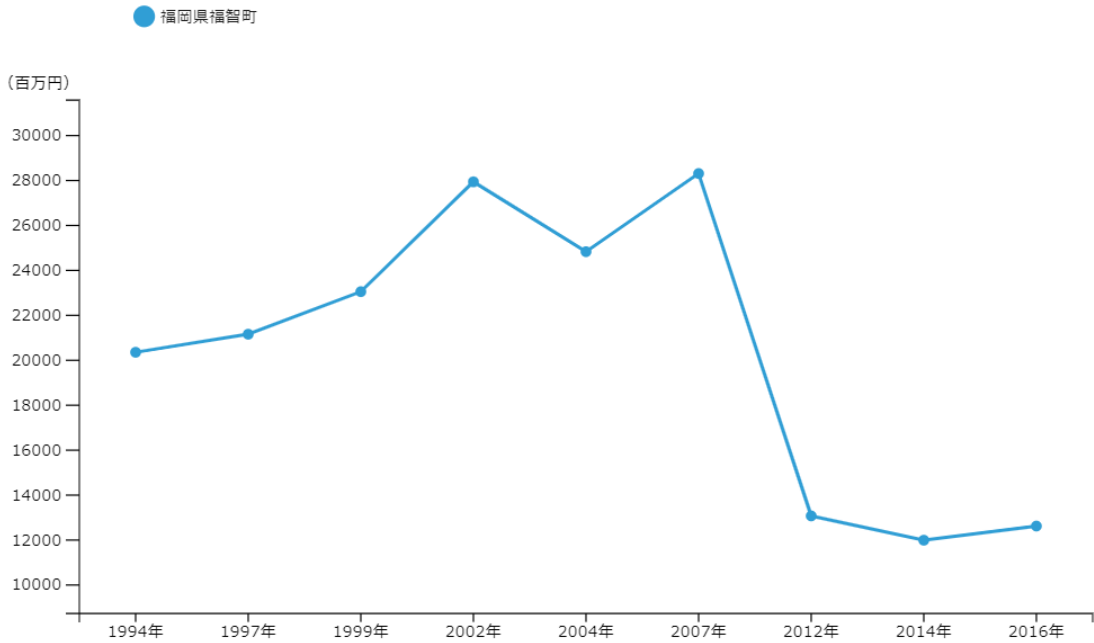


# 小売業・卸売業

## 【年間商品販売額の推移】

福智町の小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。

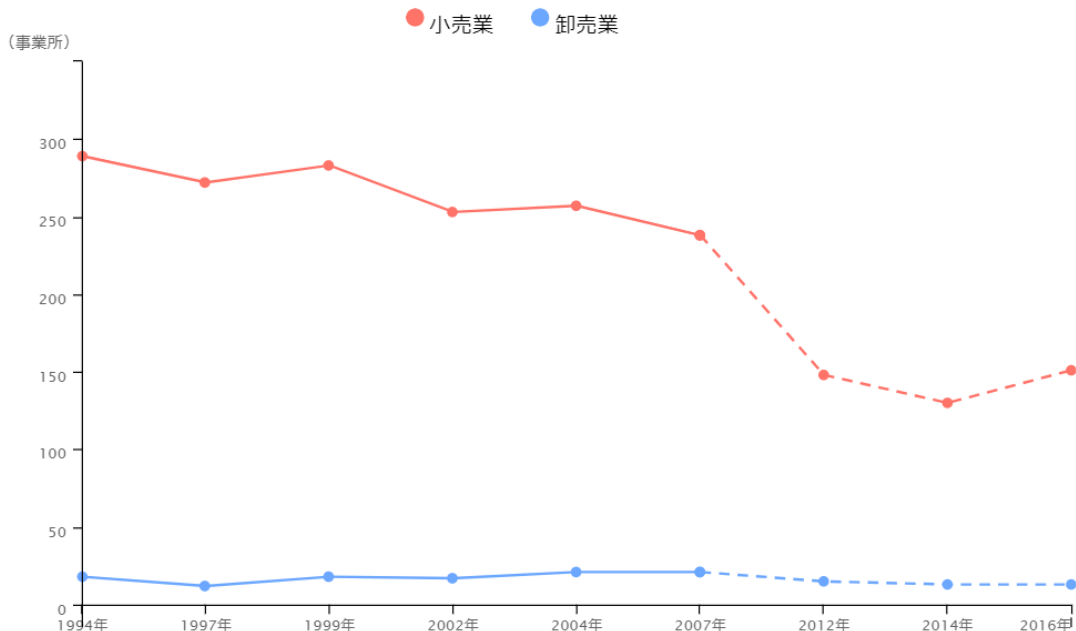
福智町の販売額は約126億円。2007年から急激に落ち込み、2012年以後は120億～130億円を推移している。



## 【事業所数（小売業・卸売業）の推移】

福智町の小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。

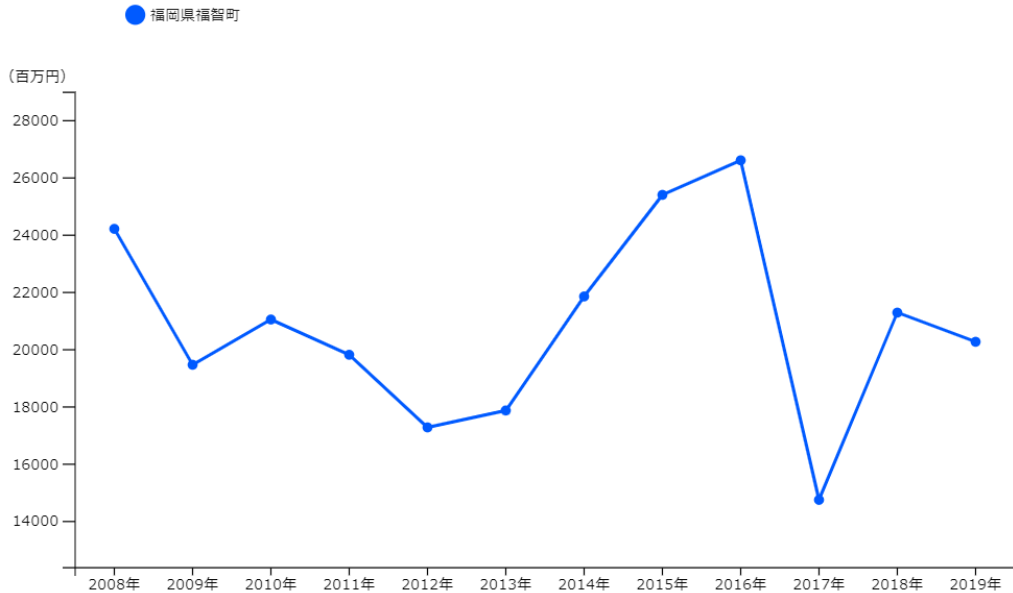
〔注記〕 グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。



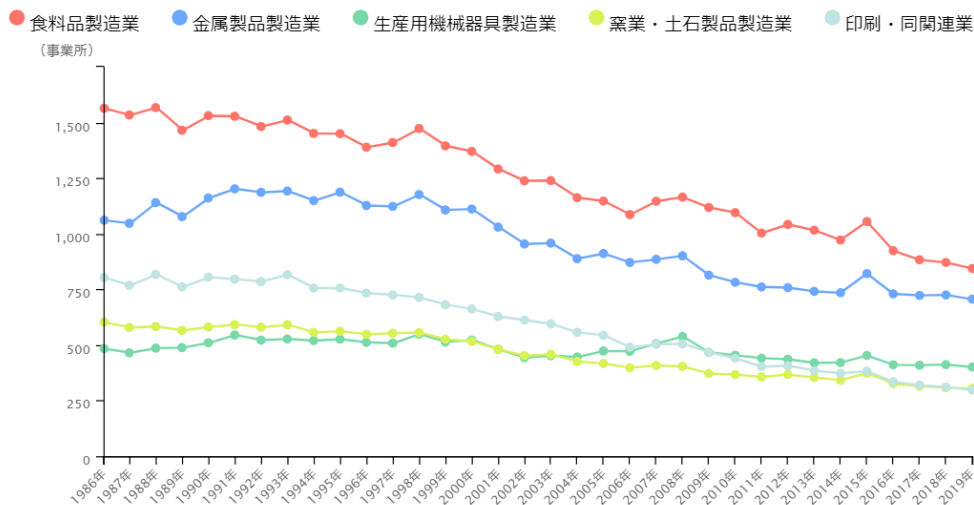
## 【製造品出荷額等】

福智町の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。

〔注記〕 従業員数4人以上の事業所が集計対象であり、稼働力分析メニューの「製造業を事業所単位で分析」を除く全産業メニューでの事業所数（事業所単位）、従業者数（事業所単位）とは集計対象が異なる。



## 【事業所数（製造業）の推移】



福智町の製造業の事業所数の推移を示したグラフである。

〔注記〕

労働生産性 = 付加価値額 ÷ 常用従業者数

付加価値額（従業者30人以上の場合）

= 製造品出荷額等  
 - (原材料使用額 + 燃料使用額 + 電力使用額)  
 + (年末在庫製造品 - 年初在庫製造品) + (年末在庫半製品 - 年初在庫半製品)  
 - (国内消費税額 + 推計消費税額)

付加価値額（従業者29人以下の場合）

= 製造品出荷額等 - 原材料使用額等 - (国内消費税額 + 推計消費税額)

製造品出荷額等 = 製造品出荷額計 + 加工賃収入額計 + 修理料収入額 + その他収入額計

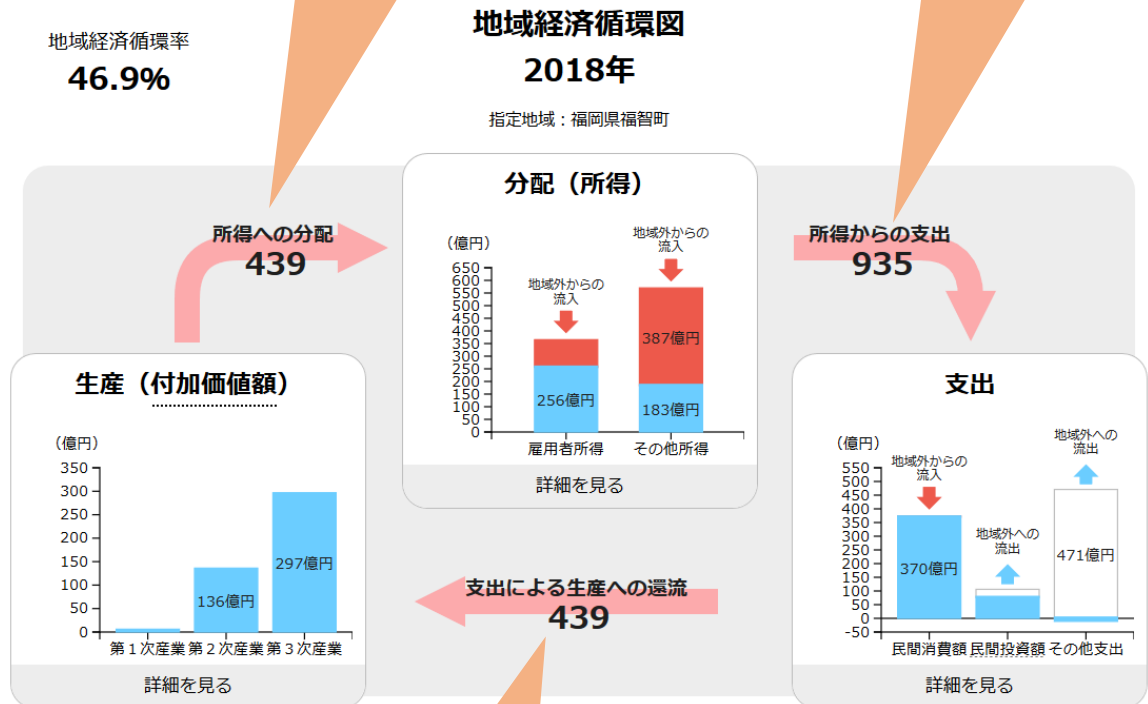
常用従業者数は、個人事業主、無給家族従業者、及び臨時雇用者を除く従業者数

## 【地域経済循環】

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値額は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出され、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。

福智町の企業は合計439億円の付加価値を生み出している。

付加価値のうち、支出に回されるのは935億円。地域外からの流入が含まれるため所得への分配より多い。



町内で支出に使われた金額は439億円。地域外へ流出しているため935億円より少ない。

- 福智町では人口の減少、少子高齢化が進んでおり、県平均と比較して生産年齢人口は低く、老年人口割合は高い。
- 福智町の産業においては、卸売業、小売業を営む事業所が多く、その割合は福岡県、全国と比較しても高い数値となっている。
- 福智町の滞在人口は、昼間人口よりも夜間人口が多いことから、他の市区町村からの通勤・通学者数（流入人口）よりも、他の市区町村への通勤・通学者数（流出人口）が多い。
- 福智町の特化係数（付加価値額（企業単位））は、社会保険・社会福祉・介護事業が抜きん出た数値となっている。
- 福智町の地域内産業の構成割合は、3次産業が52.6%、2次産業が46.3%となっている。
- 福智町の2次産業における構成割合は、電気機械が最も多く38.0%、次いで建設業が16.2%となっている。
- 福智町の3次産業における構成割合は、保健衛生・社会事業が最も多く30.6%、住宅賃貸業が14.9%となっている。
- 小売業・卸売業の年間商品販売額は、2007年から急激に落ち込んでいる。
- 製造業の事業所数は食料品・金属製品・生産用機械器具・窯業・土石製品・印刷全てが減少している。
- 地域経済循環においては、福智町の企業は合計429億円の付加価値を生み出しており、地域経済循環率は51.1%となっている。